



難民の友に、難民と共に

アルペ通信

2024年7月

No.8

NPO 法人 アルペなんみんセンター 〒248-0001 神奈川県鎌倉市十二所 80 イエズ会 日本殉教者修道院
Tel 0467-55-5422 info@arrupe-refugee.jp https://arrupe-refugee.jp



2月24日 ウクライナ交流会 花セラピー



4月6日 地域食堂ゆきのしたスタート



5月11日 ボランティア感謝の会



5月18日 鎌倉大仏殿高徳院 慈善茶会に参加

最近の アルペ

世界の難民は、1億2000万人（UNHCR, 2024年5月）に達し、過去最大を更新するとともに、12年連続で増加しています。日本に庇護を求める難民も急増しています。2023年、日本の難民認定申請者数は前年比266%増の13,823人に達しました。難民として認定された者は303人と過去最大でしたが、依然として十分な保護を受けられない難民が大勢おり、路上生活を余儀なくされる人々も少なくありません。

現在、125名のボランティアが様々な活動を支えてくださっています。調理、畑作業、敷地管理に携わっている方々、毎週往診に来てくださる近所の開業医、仕事帰りに入居中の子どもの学習支援を行う方、そして最高齢の今年95歳の方は月2回施設の掃除に来てくださっています。

入居している難民たちは、先の見えない生活に苦悩を抱えています。日々、ボランティアとの何気ない出逢いに励まされ、勇気づけられています。「私はひとりではないのだ」と。

アルペなんみんセンター事務局長 有川 憲治

世界難民の日 2024 開催報告



世界難民の日 2024 in 鎌倉の様子（6月29日、きらら鎌倉）

6月20日は、国連が定めた「世界難民の日」です。難民の置かれた境遇へ思いを馳せ、彼らへの理解を深める日として制定されました。この日に合わせ、世界各地で関連するイベントが行われます。日本でも、各地のランドマークを難民カラーであるブルーにライトアップする取り組みや、啓発イベントが開催されました。

アルペなんみんセンターでは、6月20日に小金

井で、6月29日に鎌倉でイベントを行いました。小金井では、2021年にクーデターが起きたミャンマーで市民の日常を収めた『ミャンマー・ダイアリーズ』の上映と、ミャンマーにルーツを持つ姉妹デュオ Yuzuna & Uta によるトークライブを開催。鎌倉では、カナダでチョコレート会社を立ち上げたシリア難民の実話を元にした映画『ピース・バイ・チョコレート』を上映しました。映画の後は、センターに暮らす難民たちが自身の経験や文化を語るトーク&パフォーマンスショーを行い、ショーの最後には、ユネスコ無形文化遺産でもあるコンゴの踊り「ルンバ」を、会場全員で踊って盛り上がりました。会場にはウクライナ避難民の方々から寄せられた写真も展示。多くの方が足を止めて、写真を見つめる姿が印象的でした。

プログラムコーディネーター 大年 萌音

ウクライナ写真展 開催しました

日本財団ウクライナ避難民支援
助成プログラム



瓦礫の山、戦車、兵士の姿…。「ウクライナ」と聞くとこうしたイメージが浮かぶかもしれませんが、2年半前までは平和な日常の風景がありました。日本に暮らすウクライナ避難民の方々から、平和だったところのご自身の家族や、現在の日本での暮

らしをテーマに写真をご提供いただき、ウクライナ写真展「私と家族と、ふるさとウクライナと～日本に避難してきた人々の大切な写真たち～」を開催しました。

2月28日からMUJI 鎌倉のイベントスペースで開催、ウクライナ出身のイーラさんによる「平和のお守りストラップ」づくりワークショップで交流しました。続いて鎌倉市役所、鎌倉市図書館、JICA 横浜など各地でも開催しています。小金井と鎌倉の「世界難民の日」のイベントでも会場に展示しました。

ありのままのウクライナの人々の姿や美しい風景に触れ、写真展に訪れたの方々からは、「心を痛めています」、「ウクライナの平和を祈っています」、「どうか生きて、幸せを感じてください」など、ウクライナ避難民への温かいメッセージが綴られました。それらの声は、写真を提供してくださった方々にも届き、大きな励ましとなっています。

地域連携コーディネーター 漆原 比呂志

宝もの

アルペなんみんセンターの1つの特徴は、子どもたちがいるということです。先の見えない不安定さに置かれている入居者にとって、明るさや穏やかさを運んでくれる宝ものです。

12月最後の土曜日、突然訪れたのは映画の撮影?と思わせるような中東からの美男美女。女性は、臨月近くの大きなお腹でした。2月初旬に生まれたのは男の子。その1週間後、アフリカ出身の妊娠中の女性が入居しました。6月初旬に、これまた男児が誕生しました。

食事時、親たちがゆっくり食べられるようにと、入居者たちが代わる代わるお世話をしています。それに先立ち3月中旬には、両親に伴われて7歳の女の子が入居しました。図工がお得意な彼女の作品が、事務局のドアに飾られています。折り紙が美しくカットされ、ユニークです。以前より入居している姉妹たちも成長しています。ボール遊びとダンスの好きな妹は3歳の誕生日を迎えた直後、幼稚園に通い始めました。8歳のお姉ちゃんは、ディズニーのプリンセスを卒業して韓流スターがお気に入りです。秋に双子が生まれる予定もあり、宝ものであふれそうになっています。

調理担当 津田 和加子

コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会会員



地域とのつながり、海外ネットワークが広がっています

JCAP Migrants & Refugees Network 会議

アジア太平洋地域で移民・難民支援を行う団体のネットワーク会議が2024年3月4～6日に台湾で行われ、スタッフ2名が参加しました。ミャンマーの現状や各国の取り組みなどを共有し、ネットワークとしての支援と連携の可能性を模索しました。



第56回 慈善茶会（主催：公益社団法人鎌倉青年会議所）

鎌倉大仏殿高徳院で行われた慈善茶会の寄付先に3年連続で選んでいただきました。当日は回廊にて出展し、茶会に参加された皆様や観光で来られた大勢の方々へ活動をご紹介しました。（2024年5月18日）



アルペなんみんセンター交流会

with 「らぁ麺 飯田商店」2024

らぁ麺飯田商店の店主飯田将太さんが今年も難民のためにラーメンを振舞ってくださいました。この日が初ラーメンの入居者も笑顔で完食。ご支援いただいているの方々、地域にお住まいの方々にもお集まりいただき、100名以上が名店の味を楽しみました。（2024年5月22日）



アルペ小金井センター報告



世界難民の日 2024 in 小金井



自転車にチャレンジ



畑作業



入居者の誕生日パーティ

無事に1周年を迎えた小金井シェルターでは、5月末に7人目となる入居者を迎えました。双子を宿したハイリスク妊婦さんのため、緊急時に対応ができるようスタッフ体制が充実した鎌倉に他の入居者とともに移り、小金井シェルターを一時的に閉鎖することになりました。

この間、多くの方々と出会い、また沢山のボランティアさんやシスター方と一緒に、入居者とふれあい、生活を共にしてきました。すでに自立した5人も折々に顔を見せ、SNSのグループメッセージで近況を伝えあう「ファミリー」の関係が続いています。それぞれ深い痛みや困難な状況を抱えているにも関わらず、たくましく、時にぶつかり合いながらも、ありのままの姿で生きる彼女達に、自分らしく生きる術を教えられ、同時に根気も養われています。こんな小さな現場の営みに目を止め、お話を聞きたいと言っていただけの機会も増えて、Refugee Welcomeな地域が広がる予感がします。

アルペ小金井センター センター長 松浦 由佳子

もっと知りたい アルペ

ホームページ

「アルペなんみん」で検索。お知らせ、活動報告等を掲載しています。



YouTube

活動紹介動画等を配信しています。



Facebook

お知らせ、活動報告等を掲載しています。



Instagram

日本の難民問題についてわかりやすく手軽に学べるよう発信を始めました！



ご寄付のお願い

アルペなんみんセンターは、皆さまのご寄付によって支えられています。ご支援をお願いいたします。

● ホームページからご寄付 (クレジットカード、銀行振込)

アルペなんみんセンターのホームページから、クレジットカード、銀行振込でのご寄付が可能です。クレジットカードの場合、継続寄付もお選びいただけます。



● 郵便振替口座でのご寄付

【口座番号】 00250-6-107205

【加入者名】 NPO 法人アルペなんみんセンター

NPO 法人アルペなんみんセンター

〒248-0001 神奈川県鎌倉市十二所 80 イエズス会 日本殉教者修道院
Tel 0467-55-5422 info@arrupe-refugee.jp https://arrupe-refugee.jp

発行日 2024年7月10日